

## ペルー中部・チャンカイ谷の地形と地質

＜荻谷 愛彦<sup>1)</sup>・高橋 浩<sup>2)</sup>・稲村 哲也<sup>3)</sup>・川本 芳<sup>4)</sup>・藤澤 正視<sup>5)</sup>＞

リマ市の北西約50kmにあるワラル付近に河口をもつチャンカイ川は、標高4,000mのアンデス高地から発する長さ約200kmの河川である。その下流部で最近、南米でも最古の部類に属する文明遺跡が発掘され、注目を浴びた。遺跡周辺を含むチャンカイ川沿いの地形・地質は日本ではほとんど知られていないが、そこではアンデス山脈の隆起や氷期-間氷期の気候変動とも関係する想像以上にダイナミックな現象が随所で観察できる。



口絵1

ペルー中部、チャンカイ川下流のラス・シクラス遺跡は耐震構造をもった南米最古の文明遺跡の可能性がある。2007年から地形・地質研究を含む学際的な共同研究が始まった。写真は乾期も終わりに近い8月中旬のラス・シクラス遺跡付近の景観である。遠方の山地斜面は無植生であり岩肌がむき出しになっているが、手前の河成段丘面上では灌漑によるマメなどの耕地となっており、緑がまぶしい。



口絵2

ペルー中部、チャンカイ川源流部にあるアンデス山脈の高原(プナ)。この付近は最終氷期に広く氷河・氷原に覆われ、侵食・堆積作用をこうむった。氷から頭を出していた岩稜以外は、なだらかな基盤岩地形をなす。谷底には草をはむリヤマの一群がみえ、その向こうに水をたたえた湖が望まれる。

1) 専修大学 文学部環境地理学研究室 元地質調査所所員

2) 産総研 地質情報研究部門

3) 愛知県立大学 大学院 国際文化研究科

4) 京都大学 霊長類研究所

5) 筑波技術大学 産業技術学部



口絵3  
チャンカイ川源流部周辺に分布する白亜紀堆積岩層、部分的に大規模な褶曲が発達している。



口絵4  
ワライ周辺に分布する新第三紀鮮新世の柱状節理の発達した安山岩層、国立自然保護区となっている。